





図1 指人形で遊ぶ子どもたち 1966(昭和41)年
「こどものせかい」1966年6月号(至光社)

図2 にじがでた 1957(昭和32)年
「よいこのくに」1957年7月号(学習研究社)



図3 どんどやき 1959(昭和34)年
「よいこのくに」1960年1月号(学習研究社)



図5 ヤギたちにかごまれたハイジとベーター
1961(昭和36)年 『世界少女名作全集
37. アルプスの少女』(偕成社)より



図6 「ざ・じ・ず・せ・ぞ」 1960(昭和35)年
浜田廣介『あいうえおの本』(童心社)より

図4 さくら さくら 1963(昭和38)年
「キンダーブック」1964年4月号(フレーベル館)

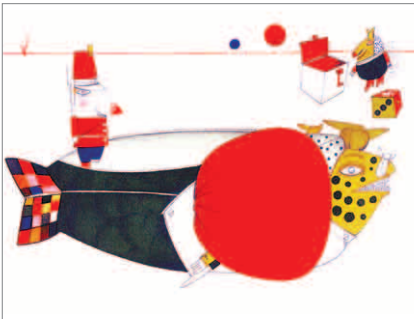


図1 クヴィエタ・パツオウスカー(チェコ)
「すずの兵隊」より 1985年
1992年国際アンデルセン賞画家賞



図3 瀬川康男(日本)
「だれかがよんだ」より 1990年
1967年ブラティスラヴァ世界絵本原画展グランプリ



図5 タ・ヒー・ロン(ベトナム)
「姫君と望遠鏡」より 2008年
2008年野間国際絵本原画コンクール佳作

図2 タチャーナ・マーヴリナ(ロシア) 『サルタン王物語』より 1961年
1976年国際アンデルセン賞画家賞

*本文中の画家名あとの()内は、国名・受賞年。
*1 イエラ・レップマン(1891-1970): ミュンヘン国際児童図書館設立者。
*2 2009年第16回にて終了。

図4 カーリナ・キアラ(フィンランド)
『おやゆびひめ』より 1988年
1983年ブラティスラヴァ世界絵本原
画展金のりんご賞

図6 フセイン・ジャマアーン(スーダン)
『マジエドと友だち』より 1998年
1998年野間国際絵本原画コンクール
大賞

ちひろゆかりの地を巡る

長野県の松本から新潟の糸魚川をつなぐJR大糸線は、全長105.4kmに及ぶ路線です。松本駅から終点の糸魚川駅まで、電車で揺られること約4時間。その昔、日本海から松本に塩を運んだ「塩の道」と呼ばれる街道沿いを列車はゆくりと進んでいきます。

大糸線の最大の魅力は、車窓からの眺望。のどかに広がる田園風景や北アルプス連峰の雄大な山並みを楽しむことができます。この10月からは、大糸線に「リゾートビューふるさと」が運行されることになり、いま、鉄道ファンの注目を集めています。

信州を心の故郷として愛したちひろもまた、大糸線に乗って安曇野や白馬、小谷などの各地を旅しました。

今回は、ちひろゆかりの地を巡る大糸線の旅の魅力を紹介いたします。

この秋、紅葉に染まる信州・安曇野に出かけてみませんか？

松本

ちひろにとって、松本は母の実家がある馴染みの土地です。1945年、空襲で東京の自宅を焼け出されたちひろたち家族は、母の実家に疎開し、松本で敗戦を迎えました。その後もちひろは、1946年5月までの約10ヵ月の間この地に留まり、人生を模索するなかで、画家として生きる決意を固めました。当時、城山公園から望む北アルプス連峰をスケッチしたその場所に、現在ちひろの記念碑が建てられています。

別名“鳥城”とも呼ばれる国宝松本城のほど近くにある中町通りは、蔵づくりの家並みが続き、城下町の風情をいまに伝えています。

大糸線の旅

穂高

松本から大糸線に乗って30分、常念岳や燕岳への登山口、穂高駅に到着です。

北アルプスを源流とした安曇野の湧き水が育んだ、日本一のわさび田や礫山美術館でよく知られています。

鳶のからまる教会風の建物が印象的な礫山美術館は、安曇野出身で日本の近代彫刻の先駆者、荻原守衛（礫山）の美術館です。かつてちひろもその趣のある佇まいをスケッチブックに描きとめました。



礫山美術館 1965年

安曇野から白馬までの50kmに及ぶエリアは、安曇野アトラインと呼ばれ、20を超える個性豊かな美術館が点在する芸術の里として、知られています。

信濃松川

穂高から15分、田園風景のなかをさらに進むと、有明山が見えてきます。その美しい姿から、別名“信濃富士”と呼ばれ、安曇野を象徴する、信仰の山として、古くから地元の人々に親しまれてきました。程なく列車は、安曇野ちひろ美術館の最寄駅、信濃松川駅に到着です。

安曇野の原風景が残る松川村は、戦後ちひろの両親が開拓農民として暮らした土地です。ちひろは、折に触れて里帰りをしては、数多くのスケッチを残しました。この秋、ちひろのスケッチポイントを示す案内板が設置されることになり、新たな魅力が加わります。

また安曇野ちひろ美術館では、10月からの約2ヵ月間、松川村・金福山観松院が所蔵する重要文化財、「銅造菩薩半跏像」を特別公開することが決まりました。（インフォメーション参照）



神戸原より後立山連峰をのぞむ 1950年

信濃大町・白馬・南小谷

信濃松川から15分、黒部ダムの玄関口、信濃大町へと進むにつれ、後立山連峰が迫ってきます。やがて山間に、清らかな水をたたえる仁科三湖があらわれ、峠を越えると程なく山岳リゾート白馬へ到着。目の雪をいただく北アルプス連峰は圧巻です。列車は、ちひろが絵本『りゅうのめのなみだ』を描いた南小谷へとさらに進みます。（船本裕子）

〈館外展紹介〉松本市美術館
ちひろ美術館コレクション

●2010年10月9日(土)～11月28日(日)

この秋、安曇野ちひろ美術館での大規模なちひろ美術館コレクションの展覧会と同時に、松本市美術館でも、コレクションの主要な作品約150点を集めた展覧会を開催します。

瀬川康男『いないいないばあ』、西巻茅子『わたしのワンピース』、エフゲーニー・ラチョフ『てぶくろ』、いわさきちひろ『もしもしおでんわ』などのミリオンセラー絵本の他、日本では触れる機会の少ない海外作家の名作の数々も展示します。会期中には、安曇野ちひろ美術館とのお得

世界の絵本大集合! ころはずむえほんのせかい

主催 松本市美術館、ちひろ美術館／共催 信濃毎日新聞社、松本平タウン情報、市民タイムス、NBS長野放送
後援 JR東日本松本駅、テレビ松本ケーブルビジョン／協賛 開運堂

な共通券やスタンプラリー、講演会やワークショップなども予定しています。ふたつの館で、たっぷりと絵本の世界をお楽しみください。（上島史子）



キアラ・ラパッチーニ
「ねえ、こっちはいて!」より 1998年

松本市美術館

〒390-0811 長野県松本市中央4-2-22

TEL.0263-39-7400

http://www.city.matsumoto.nagano.jp/artmuse/

【開館時間】午前9時～午後5時まで

【休館日】月曜日（祝日の場合は翌日）

【入館料】大人1000円、大学高校生・70歳以上の松本市民600円、中学生以下無料

【交通】JR「松本駅」より松本電鉄バス横田信大循環線5分「松本市美術館」下車、徒歩12分、タウンズニューカー東コース16分「松本市美術館」下車／長野自動車道「松本」I.C.から車で15分 ※詳細はインフォメーション参照

ちひろを 訪ねる旅③

1967年5月 広島～倉敷



広島 1967年5月

■お問い合わせは、
㈲広島観光コンベンションビューロー
TEL:082-244-6156
FAX:082-244-6138
倉敷駅前観光案内所
TEL&FAX:086-424-1220

生後間もない長男・猛の面倒をみてくれた香取和子は、その後、丸木位里、俊夫妻の家を手伝い、後に結婚して、広島へ移りました。

いわさきちひろは1967年、『わたしがちいさかったときに』の取材で広島を訪れた際、和子の自宅を訪ねて、旧交を温めました。この日だけは、被爆の実相を取材するという、ちひろにとっては過酷な仕事のなかで唯一心穏やかなものであったと言えます。

広島の旅は定かではありませんが、香取和子氏の記憶や編集者の記録、残された11点のスケッチから想像すると、次のようなものではなかったかと思われます。

■5月11日 東京から広島へ移動

■5月12日 和子氏の自宅訪問
■5月13日 広島市内の被爆遺跡を児童文学者・山口勇子氏らの案内で取材。広島平和資料館には入ることができず取材を終える。その夜、ちひろの強い希望で、広島から宮島のホテルへ移る。

■5月14日 倉敷へ移動

■5月15日 倉敷から帰京
1972年の開通を前に、新幹線が大阪までだった当時、東京から広島へも一日がかりの時代でした。

旅行中、広島で描かれたスケッチは7点。原爆ドームを描いた作品以外は、市内から見える茶臼山やドームの部分などのみで、心ここにあらず、といった様子が見えます。宮島への道中に描いたと思

える瀬戸内の小船のスケッチが1点、倉敷で家並みを描いたものが2点。ちひろにしては、いつになく少ない数です。

すべてを失い、新しい都市として再生した被爆地・広島。一方、江戸時代、天領の商人の町として栄え、空襲にみまわれることなく、古い町並みを残した倉敷。往時を忍ばせる美しい水路や倉の数々。日本で最も古い私立美術館である大原美術館。殖産興業の名残をとどめる洋風の美しい紡績工場跡など、画家にとって倉敷の魅力は少なくありません。その倉敷にいても、鉛筆を握る気持ちになれなかったちひろ。その心情は、想像に余りあります。(竹迫祐子)

ひとこと ふたこと みこと

6月19日(土)

「ゆびきりをする子ども」の絵で足が止まり幼い頃の思い出がよみがえり、涙が出ました。切なくあたたかい、すばらしい絵ですね。現在子どもが欲しいと思っているので、ちひろさんのお子さんに対する愛情が伝わり、私もいつか母になったら、子どもと一緒にまた来ます。仕事に追われ貴重な休日を、雨なのにとてすばらしい一日にすることができました。(K)

6月26日(土)

ずっと松本に住んでいたのですが、ちひろさんの絵には正直興味がなかったので、この美術館には来たことがありませんでした。今回友達に連れられて初めて訪れたのですが、来てよかったです。ルーブル美術館より感動しました!

ちひろさんのすばらしい絵に触れることができてよかったです。

6月30日(水)

30回目の誕生日を迎えた今日、念願だったちひろ美術館へ来ることができました。ここまで深い愛情を注いでくれた、ちひろさんを大好きだった母にあらためて感謝の気持ちでいっぱいです。

7月1日(木)

ヨコノリススポーツマニアな彼が、美術館に付き合ってくれるなんて思わなかった。しかも、絵本を読むのに熱中してる。

7月4日(日)

午後から東京の友人と見に来ました。大人になるということ……。とかくこの時代は面倒なことをせず、快適に効率的に生きることばかりをよしとする風潮があります

が、ちひろさんの「大人になるということは面倒なことも含めて生きていくことにある」といった掲示物をみたとき、はっとさせられた思いがしました。面倒、苦勞が多くても、子どもの頃よりいっくらか人のためになれる、今を生きる意味を知るひとときでした。

7月5日(月)

子どもたちが、外の水がたまっているオブジェでおたまじゃくしを見つけ、大興奮!! ちびたちは初本物のおたまじゃくしでした。取ろうとして水びたしで遊んでしまいました。(ゆうか、まさき、しゅうた、とうこ)

7月18日(日)

ちひろさんの色づかいステキ。こんな色のワンピースがあったらなあ。(あおい)



美術館 日記

6月12日(土) ☀

“いわさきちひろが愛した安曇野の原風景の中をのんびり歩こう!”をテーマに、JR東日本の企画で「駅からハイキング」が実施される。およそ10キロのコースで、松川の自然の豊かさを、五感を通して体験。約80名の参加者は、残雪の北アルプスや有明山がのぞめるちひろのスケッチポイントをめぐるつつ、青い稲が育つ水田のなかの道のりを、1日かけてゆっくり歩いた。

6月25日(金) ☀

昨年に引き続き、パク・チョルミンさんら韓国の絵本画家18人が来日、松川村を訪れる。美術館では、原画を保存する収蔵庫見学やギャラリートークに参加。特に、「2000年代の日本の絵本展」では、同時代の日本人の活躍に興味津々の様子。松川小学生と互いの国の

絵本の読み聞かせをしたり、農家に民泊し手料理のもてなしを受けたりと、文化交流を通じた村の方との心のふれあいも楽しんだ。

7月21日(水) ☀

毎夏の恒例となった夏休み体験コーナーが、多目的ギャラリーにオープン。今年は、ちひろの水彩技法体験とともに、赤羽末吉が行ったコラージュの技法を使った和紙のカード作りも楽しめる。地元・松川中学生によるボランティアも今年で9回目。図書委員による絵本の読み聞かせや、展示室での絵の解説も行う。はじけるような笑顔でお客様と接する子どもたちの姿を見て、職員は、また夏が来たことを実感する。

7月24日(土) ☀

じりじりと暑い日差しが照りつけるなか、ひろしま美術館での「わ

たしが選んだいわさきちひろ展」の開会式が、200人近くのお客様を迎えて行われる。今年、被爆65周年を迎えた広島。会場には、『戦火のなかの子どもたち』全点を含めた125点の作品が、広島の方たちから寄せられたメッセージとともに並び、平和を願う、深く真摯な言葉が胸を打つ。

7月30日(金) ☀

長野県内の小中学校の先生を対象に、内見会を初めて行う。近隣のみならず、長野市、岡谷市など、幅広い地域の学校からの参加があった。中学生ボランティアの見学や、「ちひろ・色の世界」展、「赤羽末吉展」のギャラリートークを行なう。茶話会では、「水彩体験を校内でもしてもらえますか?」「読み聞かせに来てほしい」などといった声も聞かれた。



安曇野館イベント予定

各イベントの予約・お問い合わせは、安曇野ちひろ美術館へ。
 詳細・最新情報はホームページからもご覧いただけます。 <http://www.chihiro.jp/>
 TEL.0261-62-0772 FAX 0261-62-0774

●冬期休館のお知らせ

2010年12月20日(月)から2011年2月末日まで、安曇野ちひろ美術館は冬期休館いたします。2011年の開館は、3月1日(火)からとなります。

●信州DC特別企画 重要文化財—銅造菩薩半跏像展

展示会期：10月1日(金)～12月19日(日)

主催：松川村 共催：安曇野ちひろ美術館 協力：金福山観松院・金福山観松院護持会

松川村にある金福山観松院に祀られている銅造菩薩半跏像は、7～8世紀頃に朝鮮半島の新羅でつくられ、渡来人によってわが国にもたらされたものだと考えられています。慈愛に満ちた優しい微笑みをたたえるこの半跏像は、県下最古の仏像で、1982年(昭和57年)に国の重要文化財に指定されました。

松川村民が守り続けてきた美しい弥勒菩薩をご覧ください。

所蔵：金福山観松院



●「ちひろの昭和—なつかしの日々」展示関連企画

「ちひろの昭和と伊藤まさこさんの子ども服」

展示会期：10月1日(金)～12月19日(日)

協力：雑誌「ミセス」

多目的ギャラリーにて、スタイリストの伊藤まさこさんが、ちひろの絵からインスピレーションを得てデザインした子ども服を展示します。今回の表紙「かわいいかくれんぼ」も登場します。雑誌「ミセス」11月号で特集されます。

伊藤まさこ：1970年横浜生まれ。文化服装学院で服作りとデザインを学ぶ。料理や雑貨などのスタイリストとして数多くの女性誌や料理本で活躍。持ち前のセンスや丁寧な暮らしぶりで人気を集める。著書に『伊藤まさこの針仕事』『こはるのふく』(文化出版局)、『信州でくたくおもしろいもの探訪』(文藝春秋)など多数。

●11月3日(水)～11月7日(日) 安曇野スタイル2010

安曇野の各工房・アトリエ・ギャラリー・飲食店・農家などで工房公開や作品展示、特別メニューなどさまざまなおもてなしをする5日間です。当館では、「古きよき時代の香りを現代に—ちひろの絵から飛び出した小物たち」をテーマに、現在活躍中の工芸作家がなつかしいちひろの絵本に登場する小物を作品にし、展示販売します。

※詳細は安曇野スタイルネットワーク <http://www.azumino-style.com>

●ともしびコンサート「昭和を歌う♪」

歌声喫茶「ともしび」によるコンサート。懐かしい昭和のうたの数々を歌いましょう。

○日 時：12月4日(土) 18:00～20:00

○会 場：展示室1前ホール

○定 員：80名

○参加費：1000円(※入館料別)

○申し込み：10月1日(金)より受付開始

●谷川俊太郎・谷川賢作 クリスマスコンサート

谷川俊太郎・賢作親子の絶妙なトークも見どころのひとつ。俊太郎さんによる絵本や詩の朗読も。大人も子どもも楽しめるコンサートです。

○日 時：12月12日(日)

18:00～20:00

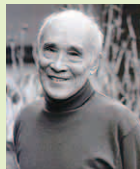
○会 場：展示室1前ホール

○定 員：80名

○参加費：2000円(※入館料別)

○申し込み：

10月1日(金)より受付開始



谷川俊太郎
©菊池一郎



谷川賢作

●ちひろの誕生日会 12月18日(土)・19日(日)

今年は、安曇野ちひろ美術館開館以来、初めて12月19日まで開館延長します。ちひろの誕生日(12月15日)も兼ねて、真冬の美術館を楽しむイベントを開催します。カフェ、ショップでもクリスマスが近いこの時期に合わせたおもてなしをいたします。

■「ちひろさん、いらっしゃい！」

「ちひろ」というお名前の方のご来館をお待ちしています。来館された「ちひろ」さんのなかから、抽選でプレゼントを差し上げます。

●おはなしの会

毎月第2・4土曜日
11:00～

絵本の読み聞かせや素話を、親子でお楽しみいただけます。参加自由、入館料のみ。

●ギャラリートーク

毎月第2・4土曜日

14:00～ 「ちひろの昭和」展

14:30～ 「国際絵本コンクール受賞画家展」

●スライドトーク

10月3日(日) 14:00～15:00

●〈館外展紹介〉松本市美術館

「ちひろ美術館コレクション 世界の絵本大集合！

こころはずむえほんのせかい」

展示会会期：10月9日(土)～11月28日(日)

ちひろ美術館がコレクションする、世界の絵本原画の展示会を開催します。安曇野ちひろ美術館と2館を観ることのできるお得な共通券を発売するほか、2館をめぐるスタンプラリーも行います。

■スタンプラリー

会期中、松本市美術館、安曇野ちひろ美術館の各受付・ショップ・カフェの利用者にスタンプを押します。6個集めるとポストカードをプレゼント。

■記念講演会「聞かせてください！ 絵本の楽しみ・絵本作りの喜び」

○講 師：西巻茅子(絵本作家)、聞き手：竹迫祐子(安曇野ちひろ美術館副館長)

○日 時：10月24日(日) 14:00～15:30

○参加費：無料(要予約 定員100名)

○会 場：松本市美術館多目的ホール

■ワークショップ「おみこしわっしょい！」

○講 師：武田美穂(絵本作家)

○日 時：10月16日(土) 14:00～17:00

○対象：小学生 ○参加費：500円(要予約 定員20名)

○会 場：松本市美術館 市民アトリエ

■ギャラリートーク

○日 時：10月23日(土)・31日(日)・11月6日(土)・7日(日)・13日(土)・14日(日)・20日(土) 14:00～15:00

○参加費：無料、参加自由

問い合わせは松本市美術館(TEL.0263-39-7400、イベント申し込み受付は9月15日より)へ。

共通券発売所：松本市美術館、安曇野ちひろ美術館

前売り1000円(9月1日～発売)・当日券1200円(10月1日～発売)

※前売り券は松本市内のプレイガイドでも発売します。(9月30日まで)

CONTENTS

〈展示紹介〉ちひろの昭和—なつかしの日々／世界の絵本大集合！ 国際絵本コンクール受賞画家展……②③

〈活動報告〉ちひろゆかりの地を巡る 大糸線の旅／〈館外展紹介〉松本市美術館…④

ちひろを訪ねる旅⑧／ひとことふたことみこと／美術館日記…⑤

美術館だより No.63 発行2010年9月15日

安曇野ちひろ美術館